

(2) 志津見ダム（島根県飯南町）

◆実施主体

島根県飯南町、学生サークル（島根大学）

◆水源地域活性化調査時の活動内容

①資源調査・再商品化

- ・学生サークルと専門家が、飯南町の生産者を訪問し、地域資源の再商品化と商品群の抽出を実施。
- ・学生サークルが生産者と共に販売商品群を選定し、値付けやラベル作成等商品化。

②産直市の開催

- ・学生サークルと大阪の学生グループが、飯南町や周辺地域の生産者と共に、地元の産品を直送して、大阪の商店街で産直市を開催。

③源流田舎ツーリズム事業

- ・学生サークルと大阪の学生と大阪の商店街地域の住民が、飯南町への産地訪問交流を行う「源流田舎ツーリズム」のモデルツアーを実施。

④シンポジウム開催

- ・生産者と行政等関係者、学生、大阪の商店街や専門家等と、水源地域対策アドバイザーが一同に介して、シンポジウムを開催。
- ・事業の検証と他地域への水平展開を討議し、今後の事業継続のために、協働の団体を結成。

◆地域の関わり

志津見ダム水源地域において実施された水源地域活性化調査は、「学生サークル」が中心となり、「都市部の学生」、「商店街関係者」、「都市住民」、「地元組織・住民」、「行政」、「アドバイザー」の7主体が連携して実施しました。

各主体の役割分担

	指揮者・リーダー	起案者・発案者	専門家・助言者	宣伝者	事務者	支援者・後援者	同好の士・同調者
学生サークル	●	●		●	●		
都市部の学生							●
商店街関係者						●	
都市住民							●
地元組織・住民	○	○		○	○	●	
都市部の企業						○	
行政					△	●	
アドバイザー			△				

●水源地域活性化調査以降も継続
△水源地域活性化調査以降は撤退
○水源地域活性化調査以降に参画

◆水源地域活性化調査以降の展開

水源地域活性化調査で得られたノウハウ等を活かし、地域住民自らが「積極的な販路拡大」を始めました。さらに、生産量の増大を図るために「加工施設の新設」を予定しています。

また、学生サークルについても、継続的に大阪市内の店舗や、インターネットを活用して農産物等を販売しています。

◆課題

助成金などを活用して事業の継続、発展を目指していますが、地域住民だけで助成金の情報を獲得し、申請書等を記載することは困難となっています。

また、水源地域活性化活動を推進していくためには、関係者をつなぐコーディネーターが必要となっています。

◆まとめ

志津見ダム水源地域では、地域で活用されていないが価値のある資源（例：規格外の農産物等）を学生と発見することが、特産品や体験ツアーの試行につながりました。

また、都市住民のニーズを把握するために積極的に産直市などに参加し、商品の強みと問題点を把握することが、商品の改良につながりました。

さらに、学生と連携して活動を実施することが、地域住民が自らの地域の価値に気がつき、農産物等の販路拡大や特産品の開発に積極的に携わるようになりました。



産直市の様子



モニターツアーの様子

活動の流れ (志津見ダム)

